

トモダチ作戦立案者が語る

歴史から見た日米関係の将来



緊迫した東アジア情勢により、改めて日米関係のあり方が問われています。

『そこまで言って委員会』『正義のミカタ』などTVでも御活躍のエルドリッチ博士をお呼びして、今後の日米同盟そして国際関係について大いに語っていただきます。

【聴講資格】 学生（大阪観光大学以外でも可）および泉南地域在住・在勤の方

日時 令和元年12月16日（月） 13:20～14:50

場所 大阪観光大学3号館 311教室（大阪府泉南郡熊取町大久保南5丁目3-1）

講師 ロバート・D・エルドリッチ氏（エルドリッチ研究所代表、政治学博士）

1968年、米国生まれ。パリ留学を経て、米リンチバーグ大学の国際関係学部を優等卒してから1990年来日。1999年、神戸大学大学院法学研究科博士後期課程修了（政治学博士）。サントリー文化財団研究員、大阪大学准教授、在日海兵隊基地外交政策部次長などを経て現職。専門分野は政治・外交、危機管理、防災、地方創生、国際交流、教育。2011年3月東日本大震災で米軍救援活動「トモダチ作戦」の構想、実行に携わる。

主な著作に、『沖縄問題の起源』（名古屋大学出版会、サントリー学芸賞・アジア太平洋賞：2003年）、『尖閣問題の起源』（名古屋大学出版会、大平正芳記念賞、国基研日本研究賞奨励賞：2015年）、『オキナワ論』（新潮社、2016年）、『次の大震災に備えるために』（近代消防、2016年）、『トモダチ作戦』（集英社、2017年）、『防災をめぐる国際協力のあり方』（共著）（ミネルヴァ書房：2017年）、『人口減少と自衛隊』（育鵬社、2019年）。

*問い合わせ先 j-kuno@tourism.ac.jp（大阪観光大学国際交流学部 久野）